

第1回小田原市市民活動推進委員会 会議録

- 1 日時：令和元年7月24日（水）午後2時30分
- 2 場所：小田原市役所 301会議室
- 3 出席者：前田委員長、益田副委員長、日下部委員、福田委員、加藤委員、善波委員、林委員、吉澤委員、米山委員、柏木委員

事務局：加藤部長、府川課長、森係長、岡崎主査、樽木主査

4 資料：

- ・次第
- ・資料 1-1 小田原市市民活動推進条例
- ・資料 1-2 小田原市市民活動推進条例施行規則
- ・資料 1-3 小田原市自治基本条例パンフレット
- ・資料 2 小田原市市民活動推進委員会傍聴要領
- ・資料 3 小田原市市民活動推進委員会報告書概要
- ・資料 4 おだわら市民交流センターUMECOについて
- ・資料 5-1 小田原市市民活動応援補助金について
- ・資料 5-2 小田原市市民活動応援補助金交付事業一覧（令和元年度）
- ・資料 6 ボランティア活動カード「まごころカード」について
- ・資料 7 ボランティア活動補償制度について
- ・資料 8 プロジェクター等貸出事業について
- ・資料 9 指定NPO法人制度について
- ・資料 10-1 提案型協働事業について
- ・資料 10-2 提案型協働事業一覧
- ・資料 11-1 小田原市市民提案型協働事業（令和2年度事業）申請一覧
- ・資料 11-2 市民提案型協働事業第1次審査実施要領（案）
- ・資料 11-3 市民提案型協働事業第1次審査採点表（案）
- ・資料 12 第9期小田原市市民活動推進委員会スケジュール（案）

5 会議内容

■ 開会

■ 副市長あいさつ

■ 委員紹介

■ 委員長、副委員長選出

※小田原市市民活動推進条例施行規則第5条に基づき、委員長及び副委員長各1名を委員の互選により選出した。

○委員長・・・前田 成東 委員

○副委員長・・・益田 麻衣子 委員

■ 諮問

※「市民活動団体の力をまちづくりに生かす方策について」

■ 議題（1）小田原市の市民活動推進に関する取組について

委員長：それでは、議題（1）小田原市の市民活動推進に関する取組について、事務局からご説明をお願いしたい。

（事務局 資料 1-1～5-2 に基づいて説明）

委員長：ただいまの説明で何か意見や質問はあるか。

委員：市民活動と地域活動の違いは何か。地区単位で実施する場合は、市民活動ではないということか。

事務局：様々な捉え方があると思うが、自治会等がベースとなり、地域固有の課題に応じて、その地域住民で分担して実施するのが地域活動であるのに対し、課題を任意に設定し、自由な意思で集まり実施するのが市民活動、という違いがある。

委員長：補足すると、資料 1-3 の6ページに条例上のそれぞれの定義が記載されているので、ご

参照いただきたい。

市民活動と地域活動がいかに連携し、地域の力を高めていくかということは、従前からの懸案事項であり、今期において議論を深めていきたい。

それでは、事務局から続けて説明をお願いしたい。

(事務局 資料 6～10-2 に基づいて説明)

委員長：ただいまの説明で何か意見や質問はあるか。

委員：ボランティアカードの発行枚数が減少しているのは、何か背景があるのか。

事務局：平成 24 年度以降、大幅に発行枚数が減少しているのは、まごころカードの提出による高校入試の内申加点がなくなったためと認識している。また、平成 30 年度が少ないのは、台風等の影響により、UMECO で実施している夏休みボランティア体験学習のプログラムが一部中止になり、参加者が減少したためと認識している。

委員：ボランティアクラブの方が地域での活動の手伝い等に参加した場合、まごころカードは発行されるのか。

事務局：申請いただければ発行することができる。

委員：入試においてまごころカードがアドバンテージにならなくなり、現状では受け取ることのメリットが感じられないのが減少の要因と感じているが、何か対策はあるか。

事務局：効果的な対策は講じられていない。

ボランティア活動をした人に、市長から感謝の気持ちを表そうということで始まり、当初は順調に発行枚数が伸びていたが、一度受け取ったら二度目は申請しない、というケースも多く、以降は伸び悩んでいる。夏休みボランティア体験学習の主な対象である中学生等への新規発行が中心となり、リピーターはあまりいないという状況である。

委員：自分の子どもの世代を見ると、確かに内申に加点される時期は皆ボランティアに参加していた。その時期が過ぎると熱が冷めてしまうというのは非常に残念で、幼い頃からボランティア活動を行う意味付け、社会貢献をすることへの意識付けを行うことができると良い。カードには、内申の加点よりもそういった付加価値が必要である。

委員：千葉県市川市の学校図書館では、本を借りることによってポイントが付き、月ごとにポイントが一番高かった児童が集会等で学校長から発表され、他児童から拍手されるといいう取組がある。そのような取組をまごころカードにも用いて、例えば市民部と教育委員会が連携することができたら良いと考える。

事務局：今のところ、まごころカードに関連しては、ボランティアには見返りを求めるべきではない、という立場である。市内では、小田原市アクティブシニア応援ポイント事業のように活動の対価のようなものを設定している事例もある。

委員：動機は内申の加点であったとしても、まごころカードがきっかけとなりその後もボランティアを継続する、というケースもあるのではないかと。ボランティアを始めるきっかけをつくるという意味で、加点を再開してほしいと思う。

委員：入試制度についてこの場で話し合うことは難しいと思うが、子どもたちがボランティアについて知ることは重要と考える。せっきまごころカードという制度があるので、将来の市民活動の担い手を育てるために、上手に周知、活用できると良い。

委員：子どもたちを見ていると、入試のためにボランティアをした後、大多数は継続していないと感じる。

そもそもまごころカードは必要なのか。

事務局：まごころカードの申請者は、特定のボランティア活動の主催者が多く、参加した子どもたちへの記念として、必要とされていると感じる。

そういった人は、ボランティアをする人の中ではごく一部かもしれないが、まごころカードを重要視していただいております。要望には応えていかなければならないと考えている。

委員：制度を継続するのであれば、多くの人に有効活用していただくべきである。活動の主催者にまごころカードの価値を広く知ってもらうことによって、段々と浸透していくのではないかと。

委員：何かをしてもらったら、感謝の声を集める、ということをしている企業もある。重要なのはフィードバックの方法で、ただ単に制度をPRするよりも、市民活動団体がどのよ

うに制度を利用し、どのような効果があり、どういった声をいただいたかということ公表すると良いのではないか。私が住む地区では、子どもたちが高齢者に手紙を書く取組をしているが、まごころカードを申請したことはない。そういった取組にも活用できることを、学校等に周知してはどうか。

先ほどの話は、まごころカードが活動の仕組として定着している団体があるということだと思うので、そうした事例をピックアップし、活用を促せば良いと思う。

委員 長：近年、本委員会においてまごころカードが議論の対象となることは多くなかった。この機会に、焦点を当てても良いかもしれない。

数年前の事業仕分けの際に、まごころカードの必要性について議論になった。そのようなことも含め、今期にもう一度まごころカードのことを一度詳しく説明していただき、より良い活用方法を検討したい。

委員 員：自治会の中で活動しているが、まごころカードのことはあまり意識していなかった。

発行分野では環境が多いとのことで、クリーンさかわなどの清掃活動はむしろ自治会において盛んに行われている。皆さん回覧を見て自主的に、まごころカードを知らなくても参加されており、地域活動が有意義なものであることが分かる。

ボランティア活動補償制度については、万が一の時のために把握していたが、非常に重要な制度である。

■ 議題（２）市民提案型協働事業について

委員 長：それでは、議題（２）市民提案型協働事業について、事務局からご説明をお願いしたい。
（事務局 資料 10-1、11-1～11-3 に基づいて説明）

委員 長：ただいまの説明で何か意見や質問はあるか。

（発言なし）

委員 長：続いて、部会委員を選任する。

※小田原市市民活動推進条例施行規則第 7 条に基づき、部会委員 5 名を委員長の指名により、部会長 1 名を部会委員の互選により選出した。

○部 会 長・・・前田 成東 委員

○部会委員・・・益田 麻衣子 委員

善波 裕美子 委員

吉澤 典高 委員

柏木 敏幸 委員

■ 議題（３）今後の進め方について

委員 長：次に、議題（３）今後の進め方について、事務局からご説明をお願いしたい。

（事務局 資料 12 に基づいて説明）

委員 長：ただいまの説明で何か意見や質問はあるか。

（発言なし）

■ その他

委員 長：その他について、事務局から願います。

（事務局 今後の会議日程の調整）

※調整の結果、今後の会議日程及び場所は次のとおりとなった。

第 2 回委員会・・・ 8 月 28 日（水）午後 UMECO

委員会部会①・・・ 8 月 6 日（火）午後 3 時 けやき

委員会部会②・・・ 10 月 10 日（木）終日 市役所

■ 閉会